

主催者あいさつ

(北東北広域連携推進協議会 会長 賢木 新悦)

皆さんこんにちは。昨日からたいへんな天気でございます、今日思わぬアクシデントで、青森の方はまもなく到着の予定ですのでよろしくお願いいいたします。皆さんにおかれましては、たいへんお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。早いもので、この協議会が平成 12 年 2 月に発足いたしましてから、まもなく 5 年になろうとしています。ご存じのとおり、平成 9 年の 9 月に第 1 回の知事サミットが開催されまして、今後 3 県が広域連携をしながら地域を活性化しようということで、「北東北広域連携構想」ができたのが平成 11 年 10 月でありますので、もう、足かけ 10 年ぐらい、広域連携、地域連携の活動を続けているわけでございます。

そうした中で、昨年皆さんといろいろなご相談を申しあげたところ、3 県の皆さんにいろいろな活動に参加してもらおうということで公募制を取りました。今日、お集まりの皆さんは、正会員や賛助会員の方々が大半ですが、そういう形で開かれるのは初めての会議でございます。

今日のセミナーは、当会として展開しているいろいろな事業の一つでございます。平成 12 年 2 月から行った数々の事業の中には、例えば「助成事業」ということで、県境を越えて連携をする方々に、わずかでありますけれども助成金を活動の一端に使っていただきたいというような活動をさせていただいてますし、また広域連携の団体の方々を集めた研修会とかを展開して、徐々にではありますけれども広域連携が浸透しつつあると思えます。しかし、一般の県民の方々は広域連携についてなかなか関心が薄いわけでありますので、ぜひ今回の全体セミナーの中では、協議会みずから具体的に広域連携を進めるような事業について、この 2 日間のなかで検討をしていただきたいと思います。

さて、今日せっかくの機会ですから、一つお話をしておきたいことがございます。それは今朝の新聞でも大きく取り上げておりましたけれども、三位一体の改革でございます。私も昨日、東京に 2 日間おりまして、ちょうど新聞社の方から協議会の会長としてコメントを求められましたけれども、私個人といたしましても、今回の内容は満足できるものではございません。ご存じのとおり、「地方のことは地方で」というふうな大きな理念があるわけでありますけれども、その理念が別におかれて、補助金をどうするか、それと地方交付税をどうするかという、まさに省益と国会議員と地方とが相反するぶつかり合いの折衷策でして、内容が良くて私は残念だと思っています。ますます地方財政が厳しく、特に北東北においてはたいへんな課題があるわけでありますので、ぜひ今後、本当の地方分権が進むように、皆さんと一緒に努力していきたいということを思っておる次第でございます。

北東北3県は、広域連携については全国の先進地でございますので、今日お集まりの皆さんと議論をしながら、広域連携を通じて、できれば日本の国のあり方とか地方のあり方も、その方向性を示せる会議であってほしいなということを思っておりますので、一つ皆さんのご協力をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

開催地あいさつ

(秋田県企画振興部長 渡部 文靖)

まだ青森県さんがお着きにならないんですけども、皆さんよく秋田にお越しくださいました。ありがとうございました。

本日はセミナーの全体会ということでございまして、秋田県では平成14年度、一昨年に引き続きまして2回目の開催となっております。平成14年度では、秋田市の近くでございます河辺町というところの「ユフォーレ」というところでございまして、広域連携を行っている団体の方々の事例発表を中心ということでやってございますけれども、今回は、「北東北広域連携構想」のアクションプランを見直しをして、北東北のこれからのあるべき姿を皆で考えることになっているということに聞いてございます。すでに分科会におきまして、秋田、青森、岩手のセミナーでそれぞれ見直し作業は行っておりますので、今日、明日は、それを土台にしまして、これからのテーマや具体的な事業について検討をして、皆さんと一緒に考えていきたいと考えてございます。

今年は、協議会が会員制に移行した最初の年ということで、今日初めて顔を合わせる方もいらっしゃると思いますけれども、会議で心ゆくまでご議論すると同時に、今晚には交流会が予定されていると聞いてございますので、秋田のお酒を飲みながらの親睦も深めていただければというふうに考えてございます。

会長の方から今話にありましたように、われわれも昨日の三位一体につきまして、知事もコメントしてございますけれども、やっぱりこの、もうしばらく前でございます、地方分権の理念ですね、地方分権一括法が法案として成立した後で残っていた国と地方との権限及び財源、本当の残された部分について、最後の最後になんともなく味噌をつけられたような感じがして、非常に残念にわれわれも思っておりますけれども、これからいろんなことがあると思いますけれども、要は、小泉総理が言うように、地方がやれることは地方で、言われなくてもわれわれはやらなくちゃいけないわけですから、そういう意気込みで進んでいきたいなと考えてございます。

有意義なセミナーになりますことをご祈念申しあげまして、歓迎のご挨拶とします。よくいらっしやいました。